
our mother fucker the earth

ロータス&ピエロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

our mother fucker the earth

【Nコード】

N6217A

【作者名】

ロータス&ピエロ

【あらすじ】

――我々は、地球に生きている。そして地球を守る為に我々は宣言する！地球を守る為には手段を選ばない事を！！佐々野会長発言直後、nagau市壊滅――2086年3月27日アルハイド新聞トップの切抜き。これから、もう二年になるのか・・・

第一話：人間一掃祭（前書き）

やっぱり朝は来るものだ。この光は確かに僕の近くにある。

宇宙が広がり続けようと、なにがあらうと僕達は太陽無くして生きては行けない。

それどころか僕の手からはもう何も落とせないと思う。

第一話：人間一掃祭

やっぱり朝は来るものだ。この光は確かに僕の近くにある。宇宙が広がり続けようと、なにがあるかと僕達は太陽無くして生きては行けない。

それどころか僕の手からはもう何も落とせないと思う。

これは、僕が平和なクソな国で育ったからか？
傲慢か？

まあいい、学校へ行く準備だ。

オレは、一通り準備をした後、リビングに降りた。

「おはよー」

誰もいないリビングだが一様言っておいた。

そうオレは一人暮らした。親は昔の事件で死んだ。

向こうの話では事故だったらしいが、誰が見たって奴らの陰謀である。バカバカしい。

そう思いながら、パンを手にとった後テレビを付けた。

一人の朝食は楽しいハズも無く、

意味の無いようなニュースとパンを適当に片付ける。

こなれた作業だ。

自転車に乗って、大きなヘッドフォンをして、歌詞の分からない洋楽のパンクを流す。

いや、本当に朝は気持ちが良い。

本当に好きだった父が死んでから丸2年たった今日の朝も。

あれから、二年経つのか……

そう思いつつMTBをコグ。

今日も、何も無い一日が始まる・・・
はずだった。

はずだったんだ。

学校に行き、三時間目まで授業を受けた記憶はある。

しかし、それ以上思い出せ無い。頭が痛い。体が動かない。

そう、気付いたらオレは病院のベットの上だった。

襲撃を受けたのか？

それにしても誰に？

あのクソ集団か？

不良？

しかし、考えているうちにまぶたが言う事を聞かなくなってきた。

ああ、手が動かない。

足はどうだ…

死ぬ。死んでしまう。

『ああ』

と意識が沈んでいった。

「……………」

「……………」

「……………い……………」

「お……………き……………」

誰だ？

「お．．．る．．．だ」

おるだ？

「おきるんだ！」

誰だ？

「どうしたんだ！とにかく起きろ！！」

ハッと跳び起きる。

あ．．．

身体が動く．．．

固定器具で固定されていたものの身体が動く事が実感できた時、身に染みる程の喜びと絶望が迫った

遠くの方で声が聞こえた

「奴らが．．． 奴らが襲撃してきた！ 患者は逃げろ！！」

ナ、ナンダッテ！ 早く逃げなければ．．．

明らかにオレは動揺していた。

何故なら、奴等は．．．父を殺した集団だった

「C区画は諦めろ！ 奴らに落ちた！！ 戦闘隊は、B区画へ！

動ける者は、ケガ人を運べ！」

クソ、B区画はココの隣じゃないか。

その後、悪夢の声が聞こえた．．．

「トリ（B区画）が落ちた！！」

その時だった、オレは咄嗟に体中についたチューブをはずし、部屋のドアを蹴り飛ばす。

そして折れた木の隙間から大量の催涙スプレーがあふれてきた。

「ゲホッゴホゴホ」

むせる。空きつ腹には最高の栄養だな（ヤツ等のことだから天然成分だし）、な

んて考えているうちに僕が一番聞きたくない音が心臓に届いた。

ババババ

「動くな！ 我々は、FGP（FINAL GREEN POLI

S」だ！ 手を頭の上に置け！！」

チツ 隙を着いて逃げるしか無いか……

「ナフサ条約を忘れるなよ」

と言いながら、手にナイフを隠し握りながら頭の上に置いた

その時だった

ガッ

急に後ろから鈍器、いや銃器に殴られ意識が遠退いて……

「全く、ナイフなんて隠し持って……」

あーこちらA班D区画の占拠に成功した。捕虜が出た為、至急搬送車を要求する」

そして、ずっしりした足音が近付いて来た。

「斉藤君久しぶりだねえ。元気な君に会えてうれしいよ。フッフ。

君のお父さんには本当にお世話になったよ。まあ結果的に君のお父さんはこの世からいなくなっただけだね。ヒヒ。」

まどろむ意識の中でもその下卑た笑い声が聞こえる。

僕は横たわったまま、精一杯痛さを我慢してヤツの目を見る。

まるで、ゴミをみるような目だな。でも、口元はにたにたしてやがる。

ガチャン とドアが開き

「竹中大佐！報告致します！ A・B・C・D・E地区の捕虜を連れて来ました！ 明日の正午に処刑の準備が完了します！！」

「わかった。コイツを搬送車に連れて行け……じゃあ、斎藤君次はあの世で会おう」

そう言つと竹中は、齊藤の頭を殴つた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6217a/>

our mother fucker the earth

2010年10月20日19時17分発行